スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

埼玉県蕨市

自 治 体 名 ： 埼玉県蕨市
担 当 課 名 ： 教育部学校教育課
電 話 番 号 ： 048-433-7728

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	5.11㎢
人口	77,216人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	1,451人
部活動数 （運動部活動のみ）	34部活
地域クラブ活動数	4クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

蕨市は、市域面積5.11平方キロメートルと全国で最もコンパクトな市であり、極めて高い人口密度という地域特性を有している。現在、市内3中学校の全生徒数1,451人のうち、85.7%（1,243人）が部活動に加入しており、依然として高い加入率を維持している 。しかし、生徒数の推移を見ると、令和11年の1,738人をピークに減少に転じ、令和18年には1,286人と、7年間で約26%（452人）減少することが予測されている。この急激な少子化は、将来的な部活動の維持に直結する極めて深刻な課題である。

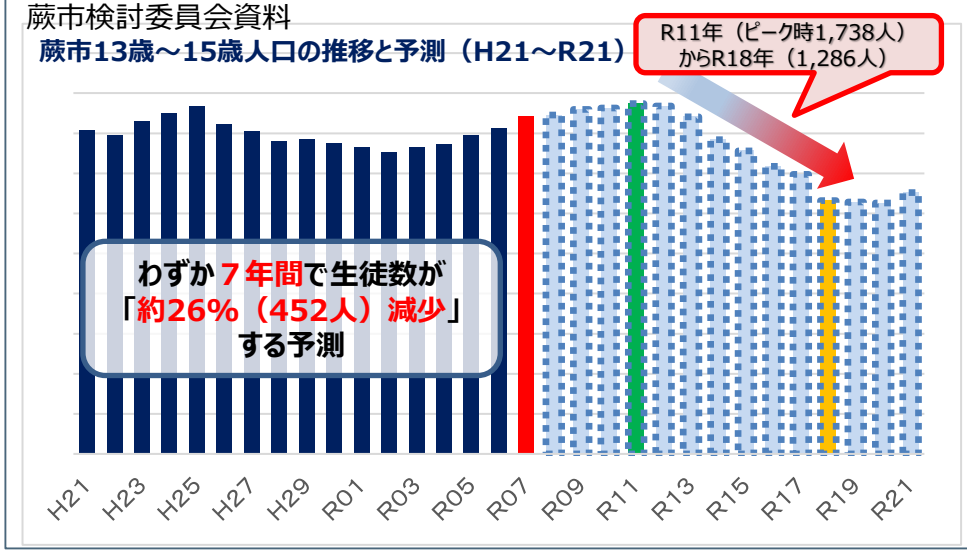
現状、市内3校で運動部34部、文化部10部が活動しているが、教職員数に対して部活動数が多く、複数顧問制の維持が困難となっている 。このため、各校では部活動の統合や募集停止を段階的に進めている。

令和7年度の実証事業では、昨年度までの陸上・剣道・柔道の3種目に、新たに水泳を加えた計4種目を地域クラブ活動として実施した。これにより、市内全3校の生徒が専門的な指導を受けられる体制をさらに拡充させた。

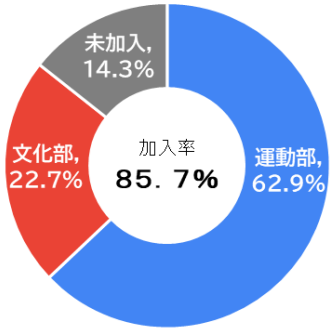
本市における最大の課題は、持続可能な運営を支える「地域の指導人材の確保」である。この解決に向け、今年度は小中学校の教職員、保護者、行政職員、関係団体等を対象とした大規模なアンケート調査を実施した。その結果、「条件が整えば協力できる」という潜在的な指導人材が一定数存在することが可視化された。

今後はこのエビデンスに基づき、参加者・指導者情報を一元管理するシステムの導入検討を進めるとともに、本市の地域特性に合致した、持続可能な地域クラブ活動の体制整備を早期に実現していく。

蕨市検討委員会資料



R07部活動加入状況



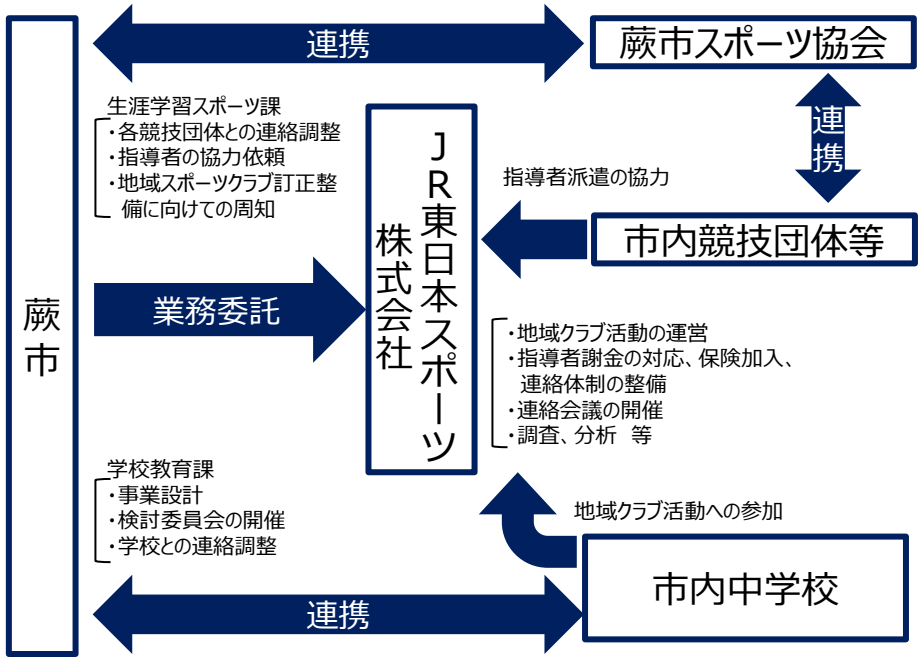
生徒数1,451名（3中学校）
運動部 913名（62.9%）
文化部 330名（22.7%）
未加入 208名（14.3%）
加入者1,243名（85.7%）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

- 学校教育課…運営団体との連絡調整、学校との連携・調整、検討委員会事務局
- 生涯学習スポーツ課…関係団体との連携、人材発掘、地域活動の環境整備

◉首長部局

- 財政課…予算措置

年間の事業スケジュール

令和7年4月	地域クラブ活動説明会の開催 地域クラブ活動の実施
令和7年5月	地域クラブ活動の視察 連絡会議（教育委員会・委託業者）
令和7年6月	部活動加入生徒数の分析（現年度までの推移含む）
令和7年8月	蕨市中学生年代人口（13～15歳）の分析（現年度まで及び今後の予測）
令和7年11月	地域指導者アンケート調査の内容の検討及び設計
令和7年12月	検討委員会の開催
令和8年1月	アンケート調査の協力依頼先への説明（校長会・市長・スポーツ協会・スポーツ推進委員協議会・文化協会・音楽家協会等） アンケート調査の実施
令和8年2月	地域指導者アンケートの第一次集約と分析※調査継続

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		3クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		3クラブ（3部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	9人	全体の運営スタッフ数	4人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
蕨市地域クラブ	民間事業者	陸上	• 休日33回	主に 8:00-12:00	1年13人 2年18人 3年3人	4月～12月	2人	2人 （内、兼務2人）	保険料 800円	大会参加なし
蕨市地域クラブ	民間事業者	剣道	• 休日31回	主に 8:00-12:00 14:00-18:00	1年3人 2年6人 3年4人	4月～12月	1人	2人 （内、兼務2人）	保険料 800円	大会参加なし
蕨市地域クラブ	民間事業者	柔道	• 休日38回	主に 8:00-12:00	1年4人 2年0人 3年3人	4月～12月	1人	2人 （内、兼務2人）	保険料 800円	大会参加なし
蕨市地域クラブ	民間事業者	水泳	• 平日33回	主に 17:00-19:00 ※施設の事情により木曜日	1年3人 2年4人 3年0人	4月～12月	2人	2人 （内、兼務2人）	保険料 800円	大会参加なし

2.実証内容と成果

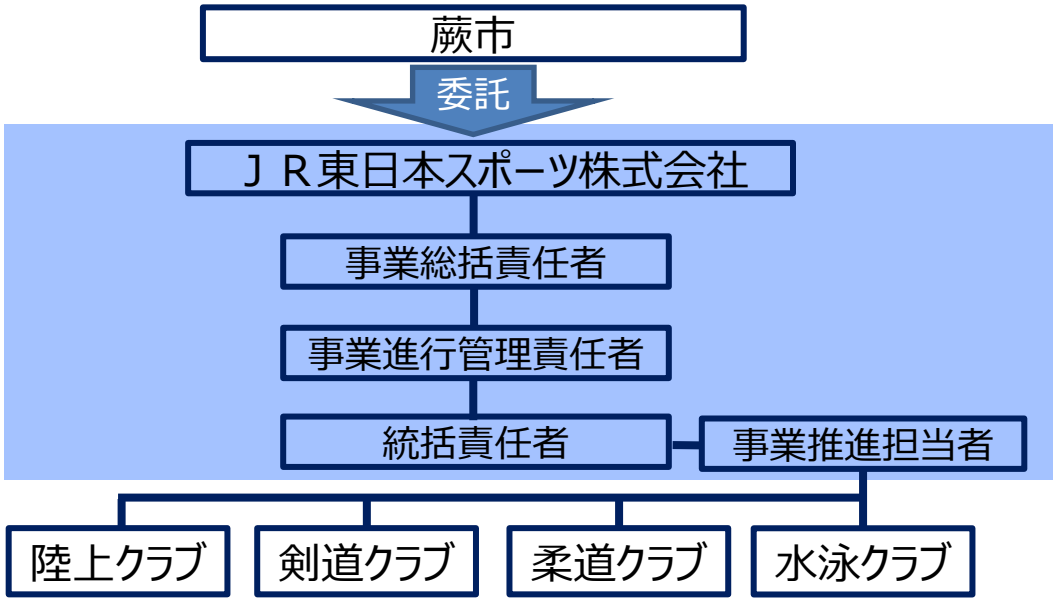
スポーツ庁

主な取組例

●蕨市地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上、剣道、柔道、水泳
運営団体名	JR東日本スポーツ株式会社
期間と日数	陸上：月3～4回程度 剣道：月3～4回程度 柔道：月3～4回程度 水泳：月3～4回程度
指導者の主な属性	委託業者社員、地域の指導者 蕨市柔道連盟、中学校教諭
活動場所	第一中学校、第二中学校 戸田市スポーツセンター、ジェクサー戸田公園
主な移動手段	徒歩、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	陸上：800円 剣道：800円 柔道：800円 水泳：800円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 事業総括責任者
  役割：窓口業務、事業推進における進捗管理を行う
- 事業進行管理責任者
  役割：窓口業務、事業スキーム作成における各種調査・分析を行う
- 統括責任者
  役割：各種調整、事務サポートを行う
- 事業推進担当者
  役割：学校との調整、生徒・保護者への説明、連絡等を行う

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○ 運営団体・実施主体の体制整備や質の確保に関する取組・持続可能な運営ができる組織体制を目指し、行政担当課が市内団体や人材との連携を図り、今後の運営団体・実施主体について検討した。

- アンケート調査依頼のための各協会の会議への出席の機会を捉え、国や県の動向を踏まえた本市の課題を共有した。
- 運営主体（委託先であるJR東日本スポーツ株式会社）と教育委員会担当者とで何度も綿密な打ち合わせを行うとともに、課題や成果が見られた場合には電話やメール等で速やかに共有し、良好な関係の下で円滑に連携した。
- クラブ活動の視察に行動を共にしたほか、中学校主催の部活動保護者会での説明や、地域クラブ参加希望生徒及び保護者向け説明会へ同行した。
- 今後の本市の方向性についての協議をはじめ、委託先が他自治体で取組んでいる好事例の情報提供を受けたり、教育委員会担当者が多様な民間企業や他自治体担当者から得た情報を共有したりする等、着実に取組を進めた。

○ 地域スポーツクラブ活動の要件等の明確化を図る取組（※上記に関する各種協議・すり合わせの中で随時実施）

○ 地域スポーツクラブ活動の運営の効率化等に関する取組・国や県が主催する研修会等について、委託先担当者等の関係者に情報提供するとともに、積極的な出席を促し、一緒に参加した。

取組の成果

委託先との密なコミュニケーションにより、運営上の課題や成果をリアルタイムで共有し、迅速な対応が可能な連携体制を構築できた。

また、委託先の指導ノウハウを活かし、以下の通り生徒の技術向上や保護者への可視化といった具体的な成果（エビデンス）が得られた。

- 【剣道】指導経験豊富な指導員によるクオリティの高い指導が実施された。また、専用アプリを活用し、保護者へ活動の様子を動画配信する取組が行われた。
- 【柔道】大会前に専門的な指導員から指導を受けることができ、生徒にとって大いに参考となった。
- 【陸上】各種目の専門指導者から多様なアドバイスを受けることで、実際に生徒の記録向上が見られた
- 【水泳】民間スポーツクラブ（ジェクサー戸田公園）の充実した施設環境を活用し、専門的かつ安全な環境下での活動を実施することができた。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

今後の取組における課題

取組を進める中で、主に以下の3点において課題が浮き彫りとなった。

1. 関係者間の理解促進：民間業者である委託先と、クラブの指導者、さらには平日部活動を指導する顧問教諭との間で、地域クラブに対する共通理解の不足や解釈の違い（誤解）が生じる場面が見られた。

2. 指導体制の確保：特定のクラブにおいて、参加人数が増加した場合に指導者1名体制では十分な対応が難しくなる懸念が示された。

3. 施設・備品等の運用と安全管理：学校施設を利用する際、急な天候不良時における教室への避難（鍵の準備不足）や、体調不良者への対応（学校備品の一時借用）、夏場における服装（体育着での参加による熱中症リスク）等、安全面・施設利用面での事前のルール決めや準備に不足が見られた。

課題への対応方針

- 「関係者間の理解促進」について、今後、制度の解釈や取組の方向性に齟齬が生じないよう、委託先、クラブ指導者、学校（顧問教諭）間で丁寧に協議や情報共有を行う機会を設け、共通理解の醸成を図る。
- 「指導体制及び安全管理」について、参加人数に応じた適切な指導体制の確保に向けた調整を行う。また、学校施設の利用に関する明確なルール作り（鍵の管理、備品の使用範囲等）や、熱中症対策（涼しい服装での参加の徹底等）等、生徒の安全を第一に考えた事前の環境整備とマニュアル化を進める。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

指導者の量的な確保及び質の保障に向け、まずは本市における指導人材のポテンシャルを正確に把握することが急務であると判断した。そのため、小・中学校の教職員及び保護者、市役所職員、スポーツ及び文化関係協会等の加盟団体の構成員等を幅広く対象とした大規模な「地域指導者アンケート」を実施し、潜在的な指導人材の掘り起こしに注力した。

取組の成果

大規模アンケートの実施により、本市には地域クラブ活動を支える「地域の宝」とも呼べる潜在的な指導人材が多数存在することが、明確なデータ（エビデンス）として把握できた。

- 【スポーツ分野】主要な競技だけでなく、多様な種目の経験者が市内に広く存在することを確認できた。
- 【文化・芸術分野等】スポーツに留まらず、吹奏楽（87人）、合唱（51人）といった大人数の経験者に加え、ピアノ（7人）、プログラミング（6人）、語学（6人）等、今後の多様なクラブ活動展開に不可欠となる「少数だが専門的なスキル」を持つ人材の存在を定量的に把握できた。

これらの結果から、今後の地域クラブ活動に必須となる潜在的な協力者の実態を可視化できたことは、本市の持続可能な体制構築において極めて大きな成果である。

今後の取組における課題

今回の取組により「多様なスキルを持つ人材が市内に多数存在すること」は証明されたが、今後はこれらの潜在的な人材を、実際の地域クラブ活動の「指導者」としてどのように登録・配置し、継続的に活動してもらうかが課題となる。

- 【システム面の課題】発掘した人材と、生徒のニーズや各クラブの活動を効果的に結びつけるマッチングの仕組み（人材バンク等）が未整備である。
- 【質の保障とリソース面の課題】専門スキルを持つ地域人材に対し、中学生の発育発達に合わせた適切な指導法や安全管理等に関する研修をどのように実施し「質」を担保するか。また、それに見合う適切な処遇（謝金等）の財源確保が課題となる。

課題への対応方針

- 【人材バンクの創設とマッチング】アンケートで協力意向を示した人材に対し、具体的な制度設計の進捗や募集要項を継続的に情報提供し、市独自の「指導者人材バンク」への登録を促す仕組みを早期に構築する。
- 【研修体制の整備】登録された指導者に対し、教育委員会や関係団体、委託先等が連携して、指導力向上やコンプライアンス等に関する研修機会を設け、指導の質の保障を図る。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

地域クラブ活動の持続可能な体制整備に向け、市全体を巻き込んだ連携体制の構築を推進した。具体的には以下の取組を実施した。

- 年度当初における、教育長とスポーツ協会会長とのヒアリングの実施。
- 庁内連携として、社会教育を所管する生涯学習スポーツ課との協議及び連携体制の構築。
- 「地域クラブ活動指導者に関するアンケート調査」の実施にあたり、関係団体等の会議等へ直接出向いての趣旨説明及び協力依頼。

※説明先：定例校長会（教職員・保護者向け）、市長（市役所職員向け）、スポーツ協会理事会、スポーツ推進委員協議会、文化協会理事会、音楽家協会三役等

取組の成果

広範囲な関係団体の会議に直接赴き、地域クラブ活動の実現に向けた支援と、実態把握（アンケート調査）への協力を丁寧に説明した結果、次のような成果を得た。

- 中学生や学校現場が置かれている状況に対し、関係団体から深い理解を得ることができた。
- 単なる協力にとどまらず、「地域の活性化につながるチャンス」と捉える前向きな質問や積極的な姿勢が多数見られ、担当としても大変心強く感じられる協力的な雰囲気が醸成された。
- アンケート調査の実施を契機に、本市の中学生のために本気になってくれる熱意ある地域人材（地域の宝）が多数存在することが確認できたことは、今後の連携基盤を築く上で非常に大きな成果であり、実行に向けた大きな一歩を踏み出すことができた。

今後の取組における課題

関係団体へ説明や協力依頼に赴いた際、市としての具体的なゴール（全面実施時期）や詳細なロードマップ（計画や方針）が固まりきっていない状態での折衝とならざるを得なかった。そのため、制度の全体像や将来的なビジョンについて、関係者に対し明確な見通しを示すことが難しかった点が課題として挙げられる。

課題への対応方針

具体的な計画が未定の中でも「まずは動き出すこと」に大きな意味があり、結果として困難な状況にも理解を示してくれる地域人材との強固な関係性を構築することができた。

今後は、このアンケート調査をきっかけに築いた関係性を最大限に生かし、以下の対応を進める。

- 早期に市としての具体的な方針（全面実施時期やロードマップ）を策定し、関係団体へ速やかに提示・共有を図る。
- 様々な課題や困難に対し共に立ち向かってくれる地域人材と緊密に連携し、実行に向けた取組を一層推進していく。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度の実証事業においては、事業開始前に重要課題として掲げた「生徒・保護者・地域への周知強化」と「持続可能なクラブ活動に向けた体制整備」の2点を中心に取組を進めた。

特に力を入れた取組として、周知・啓発活動の強化が挙げられる。今年度は、小・中学校の教職員及び保護者、市役所職員、スポーツ及び文化関係協会等の加盟団体の構成員等を広く対象とした大規模なアンケート（地域指導者アンケート）を実施し、地域クラブ活動に対する当事者の関心を高める機会とした。

また、地域クラブ活動を実施する4種目について、参加希望や関心のある生徒・保護者を対象とした説明会を開催した。これに加え、休日に地域クラブとして活動する中学校の既存の部活動については、各学校が主催する部活動保護者会に市教委担当者及び委託先の民間業者が参加し、丁寧な説明を行った。

さらに、地域の関係団体の会議等へ直接出向き、部活動地域移行の現状や今後の方向性を説明して協力を依頼できたことは、地域連携の基盤を築く上で非常に大きな成果となった。

持続可能な体制整備についても、このアンケート調査の結果や検討委員会での協議を通じて、次年度以降の抜本的な制度設計に向けた大きな一歩を踏み出すことができた。

●成果の評価

○ 昨年度からの課題であった「周知不足」について、各種説明会の開催や保護者会への参加、また地域の関係団体会議へ直接出向いての説明を行ったことで、関係者間で現状や方向性の共有が図られ、課題解決に向けて大きく前進した。

○ 持続可能な体制整備に向けて実施した大規模なアンケート調査（地域指導者アンケート）を通じて、地域クラブ活動に対する肯定・否定を含む多様な意向を広く把握することができた。さらに、スポーツ分野だけでなく文化・芸術分野等においても専門的なスキルを持つ「潜在的な指導人材の実態（地域の宝）」を把握できたことは、今後の地域クラブ活動を展開し体制づくりを進める上で非常に大きな成果である。

○ 一方で取組の改善点として、導入を目指す「受益者負担」のあり方が挙げられる。検討委員会等において、将来的にすべての休日部活動を地域クラブへ移行することを踏まえると、先行する一部のクラブ活動参加者のみに負担を強いることの難しさが浮き彫りとなり、より公平な制度設計への見直しが必要であることが確認できた。

●今後に向けて

本年度の実証事業や検討委員会等の意見を踏まえ、来年度以降は、近い将来に市内のすべての休日部活動をなくし、地域クラブ活動へ展開することを大前提とした持続可能な制度設計を進めていく。

懸案となっている「受益者負担」の徴収時期や方法については、一部のクラブのみに先行して負担を求めるのではなく、市内すべての休日部活動の地域クラブ化を一斉に行う体制が整った段階で、すべてを同じ条件として導入する方針へと改める。

今後は解決すべき課題として、この方針転換も含めた段階的な周知を図り、保護者や地域からの十分な理解を得ることが挙げられる。

関係機関との協議を引き続き深め、誰もが公平かつ持続的に参加できる地域クラブ活動の全市内一斉移行に向けた体制整備を着実に推進していく。

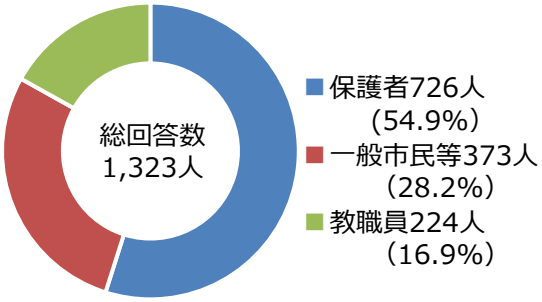
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

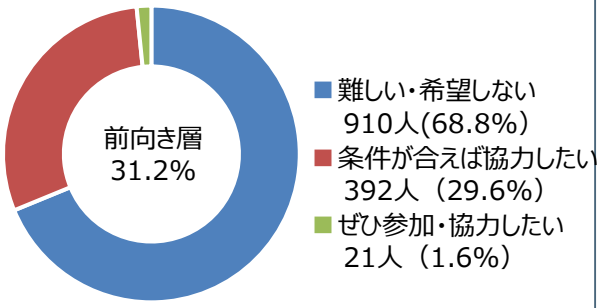
アンケート結果・関係者の声　※蕨市地域クラブ活動指導者に関するアンケート（実態調査）結果より

●アンケート結果　地域クラブ活動指導者に関するアンケート（実態調査）

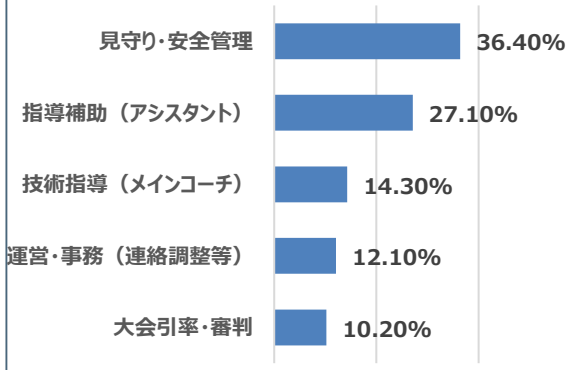
Q.あなたの立場（属性）について、最も当てはまるものをお選びください。



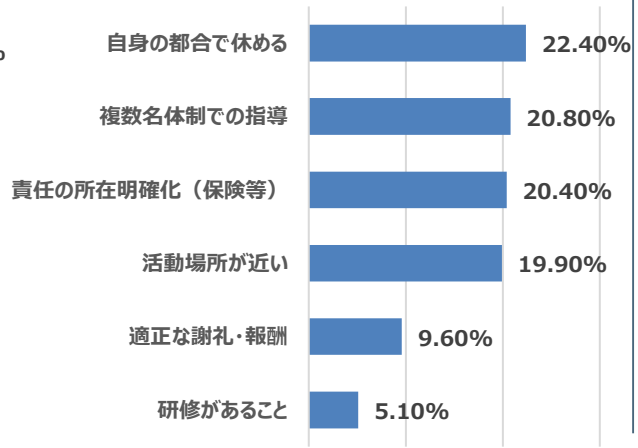
Q.今後の地域クラブ活動への参加・協力について、現時点での意向をお聞かせください。



Q.地域クラブ等の活動において、どのような役割なら担える可能性がありますか？（複数選択可）



Q.指導・支援を行うにあたり、重要視する条件や環境は何ですか？（複数選択可、最大3つまで）



●関係者の声

中学生にとって、部活動はとても大きな意義を持つものだと考えております。どのような環境下にある子どもたちでも、変わらず部活動に参加できる体制を整えていただきたいと切に願います。私自身も、子どもたちの居場所を守るために、微力ながら最大限の協力を惜しまない所存です。**（小・中学校の教職員）**

家庭の状況や地域によって、部活動への参加に差が出ないよう、費用面や環境面での配慮をお願いしたいです。また、指導者が地域の方に変わることで、安全面や指導の質も気になります。中学生を指導する上での研修やルール作り、トラブル時の対応を明確にし、保護者にも分かりやすく伝えてほしいです。**（小・中学校の保護者）**

出欠管理、練習試合の調整、ケガをした時の対応、保護者対応等、技術指導以外にハード面、ソフト面の問題が多数存在します。待遇面のみを整え、これらを丸投げされての地域展開では誰も引き受け手はいないと思いますし、私も引き受けられません。無理のない制度設計をお願いします。**（一般市民・外部指導者）**

今まで教員が担ってきたものは、技術指導、精神面の指導、人間関係、学業への動機づけ等、相当な仕事量です。学校が関わらなくなるのであれば、そこには発生する責任の明確化と、一般社会以上の対価（報酬）が必要不可欠だと思います。**（小・中学校の教職員）**

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料



【陸上クラブ】



【水泳クラブ】



【剣道クラブ】



【柔道クラブ】

2.実証内容と成果
3.今後の方向性

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
検討会議開催 意識調査実施	運営団体の選定、指導者の選定、拠点校の選定	生徒、保護者への説明	地域クラブ活動の開始	地域クラブ活動の拡大（実施回数の増加、対象者拡大）	地域クラブ活動の拡大（種目の追加） 指導者アンケート実施	体制整備に向けた設計（人材バンクの構築）

令和4年度

- **取組内容**
  - 行政担当課と中学校長による「検討会議」開催。
  - 教職員への意識調査実施。
  - 中学1・2年生の生徒及び保護者への意識調査実施。
  - 「蕨市における部活動の地域移行・地域連携検討委員会設置要綱」策定。
- **実施にあたって生じた課題**
  - 地域クラブ活動の運営団体、実施主体となる候補が不足。
- **工夫した点、成果 等**
  - 意識調査を実施し、現状を把握。
  - 中学校長と定期的な情報交換。

令和5年度

- **取組内容**
  - 「蕨市における地域移行・地域連携検討委員会」開催（年4回）。
  - スポーツ庁委託「運動部活動の地域移行に向けた実証事業」に参加。
- **実施にあたって生じた課題**
  - 指導者の確保、学校との日程調整、生徒・保護者への周知に時間を要した。
  - 活動場所を学校施設としているため、部活動との違いが見えづらく、地域クラブ活動の周知が進まない。
- **工夫した点、成果 等**
  - 市内競技連盟から指導者を推薦していただき、連携を図る。

令和6年度

- **取組内容**
  - 「蕨市における地域移行・地域連携検討委員会」開催（年4回）。
  - 地域クラブ活動の継続（陸上、剣道、柔道）。
  - 「体験イベント」の企画。
  - 市内高校との連携。
- **実施にあたって生じた課題**
  - 事業の周知が不十分であり、地域人材等の発掘が進まなかった。
- **工夫した点、成果 等**
  - 前年度から切れ目なく活動を継続。
  - 地域で活動している団体と連携し、イベントを企画することで、課題点の把握に繋がった。

令和7年度

- **取組内容**
  - 「蕨市における地域移行・地域連携検討委員会」開催。
  - 地域クラブ活動の継続（陸上、剣道、柔道、水泳）。
  - 地域クラブ活動指導者に関するアンケート（実態調査）実施。
- **実施にあたって生じた課題**
  - 新規クラブの参加申込数が少なかった。（既存部活からの参加も低調）。
- **工夫した点、成果 等**
  - 前年度から切れ目なく活動を継続。
  - アンケート調査の協力依頼で出席した関係団体等の会議で課題意識の共有が図れ、理解が進んだ。

ロードマップ	R08(2026)年度	R09(2027)年度	R10 (2028)年度	R11 (2029)年度	R12 (2030)年度	R13 (2031)年度
休日	引き続きスポーツ系を推進し、できる限り早期の地域クラブ活動の実現を目指す					
	新たに文化芸術系の検討を開始し、運動部同様できる限り早期の地域クラブ活動の実現を目指す					
平日	休日の全面実施を見据えて、時期を捉えて検討を開始する（当面、「部活動」として活動する）					